

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

高吸水性樹脂球の誤飲による腸閉塞 (No109 高吸水性樹脂球の誤飲による腸閉塞の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：1歳 4か月 性別：男児 体重：10.7kg 身長：78.8cm
	家族構成	父、母、兄(10歳)、兄(7歳)、姉(3歳)
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		異物誤飲、腸閉塞
医療費		入院 約120万円 外来 26,630円
原因対象	対象名称	水で膨らむボール（高吸水性樹脂製品）（大きさは1つあたり直径10～20mm大で、膨らむと直径35～40mm大になる、対象年齢6歳以上と記載あり、内容量80gと記載あり）
	入手経路 使用状況	2021年12月、母の妹が、子どもたちへのプレゼントとして母に2袋購入したもののうち1つを開封し、もう1つを未開封のまま、自宅リビングの姉（3歳）の手の届かない棚に保管されていた。
発生状況	発生場所	自宅リビング
	周囲の人 周囲の環境	3歳の姉と本児がリビングで一緒に遊んでおり、母は同じリビングの離れた場所にいた。
	発生年月日	2021年12月 X日（水）午後 8時 00分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	上記時刻から午後10時にかけて、3歳の姉が、どこから取り出してきたのかは不明だが、開封された状態の膨らむボール（水で膨らむ前）を手にしていたのを母は確認していた。本児も一緒にいたが、みているだけだと考えていた。午後10時30分から本児が嘔吐を繰り返していたため、異物誤飲の可能性を母が疑い、X+1日午前2時に医療機関Aを受診した。異物誤飲がはっきりせず、一旦帰宅となり、以降医療機関Bで胃腸炎として経過観察されていた。X+4日まで嘔吐が持続し、腹部膨満を認めてきたため医療機関Cを受診し、腸閉塞の診断となった。手術目的で医療機関Aに転院した。

<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>来院時、腹部膨満が著明であった。腹部超音波検査で、小腸に複数の膨らんだボールと思われる像(図 1)を確認し、緊急手術となった。腹腔鏡下で最も大きいボールの位置を確認し、小開腹で小腸を出し、切開の上異物を複数個摘出した。異物は最大径 4cm で、破れてバラバラになっているものもあった (図 2)。また、術後排便時、さらに複数の異物を排泄した (図 3)。3 日間の集中治療室管理の後、消化器症状が改善したため、X+8 日に自宅退院となった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>腸閉塞、異物誤飲、膨らむボール、高吸水性樹脂製品</p>



図 1 拡張した小腸内の複数の異物



図 2 摘出した異物

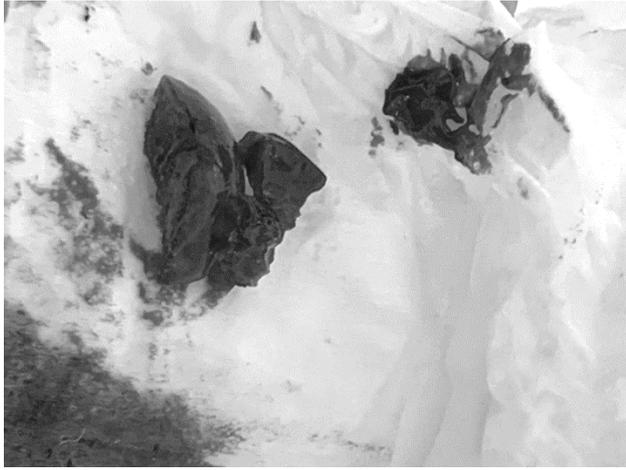


図3 術後も便中に排泄された異物